

# 信濃美術館及び城山公園噴水広場の整備にかかる 「県・長野市合同フォーラム」概要

県民文化部文化政策課  
信濃美術館整備室

日 時：平成 30 年 2 月 17 (土曜日) 午後 1 時 30 分から 3 時 10 分  
場 所：長野市役所 第二庁舎 講堂  
参加者：82 名  
概 要

## 共同発表

### 宮崎浩 (株)プランツアソシエイツ代表取締役

昨年 6 月に信濃美術館と城山公園噴水広場の設計の機会をいただき、非常にうれしく思っている。それから半年以上経ったが、今回の設計のテーマは「ランドスケープ・ミュージアム」で変わらない。これまで風景の中の美術館はどうあるべきかを検討してきた。

今、思うことは、通常の場合、美術館は美術館として打合せをし、公園は公園として打合せをして、最終的にそれをすり合わせる。今回、すごくうれしかったのは、善光寺も一緒になり、建築の打合せ(県の仕事)、城山公園のデザインの打合せ(市の仕事)を同時一体的にやらせてもらえたこと。その結果として「ランドスケープ・ミュージアム」とは何かの答のひとつに「屋根のある公園」を持つという新しい考え方ができた。別々にやっていたらこのような美術館はできなかった。これから詳細設計や工事についても「チーム」として仕事ができると本当に新しい美術館ができるのではないかと思っている。それを期待して、これからも頑張っていきたい。

### 阿部知事

本日、加藤市長、若麻績寺務総長と一緒に信濃美術館、城山公園噴水広場の今後のあり方について発表させていただき、皆さんと我々の思いを共有できる機会ができたことを大変ありがたく思っている。

美術館の建物部分は県が責任を持って整備するが、周辺の公園は加藤市長にお考えいただかないといけない。信濃美術館でいつも感じているのは、善光寺がこれだけ近くにあるのに、善光寺には多くのお客さんがお越しになるにもかかわらず、我々の努力不足もあるが、もっと美術館にお越しいただける環境がつかれるのではないかということ。そういう観点では、今回善光寺も一緒になって考えていただけていることを大変ありがたく思っている。長野市と善光寺には心から感謝申し上げたい。

信濃美術館は老朽化し過ぎたと思っており、すばらしい美術作品の展示や他から

お預かりして展示するには、施設的には課題が多い。長野県は美術館・博物館の数が日本で最も多い県であり、正に文化の拠点が県内にたくさんある。信濃美術館をもう少し存在感があるものにしていかなければいけない。信濃美術館だけがよければよいのではなくて、県内の文化・芸術の様々な取組を信濃美術館を拠点として応援したり、県内美術館がネットワーク化されていかなければいけないが、そうしたことを県としても信濃美術館としても、もっとしっかりやっていかなければいけないと考えている。

2月県議会に新しい総合計画を提案している。「学びと自治の力で拓く新時代」しあわせ信州創造プラン2.0と位置付けているが、これまではものの豊かさを追い求めてきたが、そういう時代からもっと心の豊かさ、文化の薫りあるような暮らしを長野県全体がそういう地域になっていかなければいけないと思っている。信濃美術館が心の豊かさを実感できる社会をつくっていくひとつの大きな象徴にしたい。これは信濃美術館だけでできる訳ではないが、そういうことを進めていく大きなきっかけにしていきたい。そういう意味で大きく期待している。

これまで、松本館長予定者、設計者の宮崎さんをはじめ県の職員もできるだけ県民の皆さんと対話をして、我々が勝手に思っていることだけではなくて、県内の美術関係者や芸術関係者などの利用者、周辺住民の皆さん方とかなり対話をさせていただいた中でこうした方向性がまとまってきた。本日お集まりの皆様には我々の考え方をぜひ共有していただき、一緒になって信濃美術館を皆様方に誇りを持ってもらえるように、愛して活用していただけるようなものにしていきたい。ぜひご協力いただきたいと思います。

また、信濃美術館を学びの拠点にしていきたい。海外の美術館では、どこでも子どもたちがたくさん来ていて、学芸員が話をしながら、また、子どもたちが主体的に学びながら文化・芸術に触れ合っている姿が見られる。長野県の新しい時代を学びの県にしていきたいと思っているが、机に座って国語、算数、理科、社会を学ぶだけではなくて、これから重要になるのは感性を子どもたちに身につけてもらいたいということ。自分の感じていることを発信していくことが重要。音楽や演劇、絵画などは、自分の気持ちを表現していく、自分の感覚を表現していく非常に重要な手段である。そうした観点で、長野県の子どもたちが学びができる拠点にもしていきたい。

また、善光寺の一角でもあるので、観光の拠点にもしていきたい。いろいろな地域で特徴ある美術館ができていくが、信濃美術館もぜひ行ってみたい、こうしたものを観たい、こうした体験をしたいと思ってもらえるような美術館にしていくことによって、多くの皆さんが来ていただける拠点にしていきたい。

また、周辺を含めて人をひきつける拠点にもしていきたい。これには加藤市長と若麻績寺務総長の協力が不可欠だが、今、信濃美術館の周りに夜に行くと寂しい。

女性一人で行くと怖い感じがする。長野市には、ぜひいろいろな人たちが居心地のよい空間にしてください、美術館に人が来てもらうことは重要だが、同時に美術館周辺、城山公園一帯、善光寺周辺のまちづくりも若い人たちが頑張ってくれているので、この一帯が賑わいがあり、人を引き付ける、居心地のよい空間になるように私も努力していきたい。ぜひ皆様からも御協力をいただきたい。

本日お集まりの皆様をはじめ、多くの県民の皆様の協力を得ながらよい美術館に、長野市と善光寺と一緒にすばらしい周辺整備をやっていきたい。皆様方の御協力、御支援を心からお願いして、私の思いと皆様へのお願いとさせていただきたい。

### **加藤市長**

知事の大英断により、半世紀ぶりに信濃美術館が全面改築されることに御礼を申し上げたい。これに合わせて、長野市も城山公園を整備していきたいと考えている。

城山公園は、このところ利用者が少ないと感じている。城山公園は明治時代に開設されて以来、長野市で最も古く歴史ある公園である。噴水と言えば城山公園という位、市民に親しまれた公園である。

善光寺と城山公園と信濃美術館・東山魁夷館をうまく活かした形の中で、回遊性を含めて整備していきたい。前回の御開帳の時に、善光寺に700万人を超える参拝客が来たにもかかわらず、城山公園や信濃美術館は普段と変わらない状況でお客様が来なかった。今回は美術館の屋上から善光寺を望めるようになり、善光寺との交流ができる体制ができる。善光寺東公園はすばらしい庭園であるが、今一つ活かされていない。善光寺と連携する中で、東公園と噴水広場と信濃美術館・東山魁夷館、ふれあい広場、プール、動物園、蔵春閣を含めて全体的な回遊性を考えていきたい。

市民にもっと利用してもらえるような公園にしていきたいし、城山公園一帯を観光・文化・レクリエーションの一大拠点となるよう整備を進めてまいりたい。

### **若麻績寺務総長**

昨年、信濃美術館の展覧会のオープニングセレモニーに出席させていただいた。信濃美術館は50周年を迎えたが、50周年を迎えた美術館は全国でも本当に古い美術館だと知った。その信濃美術館もいよいよ立て替えが決まった。新しい美術館は、屋上から真正面に撞木造りの善光寺御本堂が見えるようになる。新しい美術館の開館は、2021年になると聞いており、この年は善光寺も御開帳を行っている。信濃美術館を観た後、善光寺御開帳もお参りしていただく。また、御開帳をお参りした後、信濃美術館にも行く。そのような回遊性、一体感を持てるような形にできればすばらしい。善光寺は西側にバス駐車場があるが、できるだけ東側でも降りていただき、美術館のほうにも行っていただくようにしたい。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年である。今でも毎日インバウンドの方々が大勢善光寺に来ているが、2020年に向けて、さらにインバウンドの方が来られるようになる。インバウンドの方も楽しめる、また、すばらしいと思えるような美術館にさせていただくことを期待している。隣の善光寺からも応援させていただく。

### 主な意見等

○城山公園や美術館の屋上広場は、犬の散歩ができるようになるのか。

→【市】他の公園では認めているが、今のところ噴水広場は犬の散歩を認める予定はしていない。

→【県】美術館の屋上広場も難しいと考えている。

○美術館の計画が固まり、どのような公園の提案が出てくるのか楽しみにしていたが、正直がっかりした。現在の美術館と噴水広場の区画が変わっていない中での計画になっている。これがランドスケープとどのように結びついているのか理解するのが難しい。ふれあい広場をどのように活用していくのか、市として理想的な形になっているのか分からない。城山公園がなぜ一体とならないのか不思議である。ふれあい広場と噴水広場が並んであることのコンセプトが分からない。信濃美術館の駐車場は北側だけあり、遠くから来た人はどこにあるのか分からない場所にある。なおかつ、駐車場は噴水広場とふれあい広場を分断している。長野市街地から城山地域に行くバスや車の流れを将来どのようにしていくのかを含めて何ら解決策になっていない。特に噴水を大事にしているようだが、長野県全体を代表する信濃美術館の公園に、なぜ噴水を重要視するのか。地元が反対すると何事もできないので、ここに地元の意見が活かされているのではないか。これから50年先まで使われなければ困る美術館なので、外部の芸術作品も活用できるような広場にしたいほうがよい。子どもたちが遊ぶことは大事だが、むしろ隣のふれあい広場で十分目的が達せられているのではないか。美術館を少しでも広く活用するためには、建物の中だけではなく、外部も大事な空間である。城山公園一帯は大事な財産であるので考えを聞きたい。

→【市】噴水広場と信濃美術館だけでなく、ふれあい広場、プール、少年科学センター、蔵春閣一帯を踏まえて、全体の中で進めていく。ふれあい広場についても、今、都市公園の要件が緩和されてきている。その中で今後対応を考えていきたい。駐車場については、最終的に決定はしていないが、旧NHK跡地に公園全体の駐車場を考えている。噴水については、いろいろ意見があるが、昔からあるものなので、城山公園と言えば噴水だという思いがある。信濃美術館の前庭としてだけではなく、噴水も残したい気持ちがある。

→【県】信濃美術館単体で考えるのであれば、県だけでやればよいが、それではいけないので、長野市、善光寺に協力をいただき、一体で考えてきている。噴水広場は信濃美術館、東山魁夷館と一体で使えるようにしていきたい。ふれあい広場も含む城山公園全体を含めて、賑わいができるようにしてほしい。最近、国土交通省も都市公園にいろいろな施設が設置できるように規制緩和が行われている。そういうことも長野市にはお願いしている。前向きな意見を出してもらい、市民・県民がよい場所になったと思ってもらえるようにしていきたい。

○この基本設計はうまくまとまっており大変評価している。それを踏まえて、2つ申し上げたい。長野県中の小学生が、県庁を見学して、善光寺に寄り、城山公園でお昼を食べている光景をよく見る。県民に開かれたオープンスペースとしての機能を失わないでほしい。これは噴水広場に限らず、城山公園全体を見る中で考えてほしい。加えて、美術館で鑑賞した後、公園で余韻に浸る機能も持たせてほしい。城山公園の東側から上信越の山並みを見る、善光寺平を見る。これは、正に日本百景のひとつであるので、この部分も活かしてほしい。噴水については、あってもなくてもよいと考えているが、かなり多くの皆さんが噴水にこだわりがある。この噴水はただの噴水ではない。大正4年に長野市が大変な難航事業で戸隠から水道を引いた。この水道が長野市に行き渡ることによって、長野市が急速に発展した歴史と事実がある。戸隠から引いた水を噴水として直接吹き上げた。東洋一の噴水としてインパクトのあるものだった。そういう事実を知っている人たちが噴水にこだわりを持っている。先人の歴史的な偉業を称えるものを噴水のシンボリックなものの中に織り込めないか。

→【市】開かれた公園にしていくことは、正に市として目指す方向。美術館と公園とは一体であると考えている。美術館での鑑賞後の余韻が残るような公園にしていきたい。東側からの上信越の山並みは、現在、木が大きくなり見えなくなっている状況がある。今後、すばらしい景観が見られるように整理していきたい。城山公園全体について全体計画の検討を進めているので、その中で植栽のあり方、剪定を含めて検討していきたい。噴水の歴史については、残したいと考えており、説明書きを入れた看板を設置するなど考えていきたい。

→【県】今後、たくさんの小学生の皆さんに美術館に来てほしいと考えており、その際の休憩場所や食事ができるスペースなど県民に開かれたスペースをつくることは十分可能だと考えている。今後、工夫していきたい。

→【設計者】現在の信濃美術館の建物についても何か記録として残したい。善光寺の土塁についても由来を含めて何かの形で残したい。歴史表示は、噴水だけではなく、いろいろな場所でサイン計画の中に組み込んでいきたい。

○小学生や幼稚園児のバスが停める場所がない。善光寺に頼らずに、今の駐車場を二層にすることなど考えたらどうか。今回の図面から現在城山公園内にあるの喫

茶店が消えているが、この辺もきちんと折り合いをつけて公園全体を検討する中で考えてほしい。ふれあい広場にライティング設備があるが、維持管理をしっかりと行ってほしい。

→【設計者】駐車場についてはなかなか難しいが、なるべく対応できるように考えていきたい。大型バスについては、美術館の3階の東側道路に面した部分に基本的には駐車場ではないが、乗り降りの際にバスを付けられるスペースを設けている。

→【市】喫茶店については、この計画にぜひ協力してもらいたいということで相手方に説明している。引き続き、理解を得られるように説明していきたい。ふれあい広場の維持管理については管理を民間にお願いしているが、維持管理をしっかりとやっていくように努力していきたい。

○長野市は実施設計や現場監理になるといつもぶつ切れになる。今回は、基本設計を担当したプランツアソシエイツとオンサイト計画設計事務所が現場監理など何らかの形で関与できるような仕組みをつくらないと出来上がったものが、似て非なるものになる可能性がある。その辺の体制をしっかりとつくって進めてほしい。

→【市】これまで県と調整しながら基本設計をつくってきた。この考え方を忠実に実施設計に反映していかなければいけない。これからもプランツアソシエイツやオンサイト計画設計事務所に関わってもらおう形で、この計画が確実に実行できるように進めてまいりたい。

(以上)